

2021 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第7戦
スーパーバイクレース in KYUSHU

大分県・オートボリス (1周=4.674km)

2021年9月18日(土) 公式予選・JSB1000レース1 天候: 晴れ コース: ドライ

9月19日(日) 決勝・JSB1000レース2 天候: 晴れ コース: ドライ

観客動員数: 7,200人 (2日間合計)

JSB1000	2	■清成龍一	Race1 予選:15番手(タイム:1分52秒542) 決勝: DNF Race2 予選:15番手(タイム:1分52秒713) 決勝: 10位	年間ランキング	3位
ST1000	37	■渡辺一馬	予選: P.P. (タイム:1分51秒077) 決勝: 4位	年間ランキング	チャンピオン
ST1000	3	■作本輝介	予選: 3番手(タイム:1分51秒891) 決勝: 2位	年間ランキング	2位

渡辺一馬がST1000クラスチャンピオンを獲得!
作本輝介はトップ争いの末、2位フィニッシュ!!

ついに最終戦を迎えた全日本ロードレース選手権。前戦の岡山ラウンドを終えた時点でST1000クラスのポイントリーダーは、渡辺一馬がつけ、これを19ポイント差で作本輝介が追うスタンディングとなっており、チャンピオン争いは Astemo Honda Dream SI Racing の2人に絞られていた。

レースウィーク初日となった金曜日は、台風14号が接近したため、走行ができるかどうか分からない予報だったが、ST1000クラスとJSB1000クラスは、奇跡的に1本目はドライコンディションで走ることができたが、2本目は風雨が強くなりキャンセルとなっていた。この日、ST1000クラスでは、渡辺がトップタイムをマーク。作本は4番手につけ、2人とも上々の出だしとなっていた。JSB1000クラスの清成も事前テストからのマシンセットを確認しながら3番手につけていた。

土曜日の天気は回復方向だったが、

路面は乾いておらず、中途半端なコンディションでJSB1000クラスの公式予選は始まった。セッションが始まると雨がパラパラと降ってくる。清成は様子を見ながらコースインし、コンディションを確認する。セッション終盤には、雨も止み、コースもほぼドライコンディションになると、多くのライダーがタイムアップして来る。しかし、清成は、マシンセットがコンディションに合わず思うようにペースを上げることができず予選はレース1、レース2共に15番手という不本意な結果になっていた。

ST1000クラスの公式予選は、最初からドライコンディションで行われセッション序盤にアタックした渡辺が1分51秒077までタイムを詰めポールポジションを獲得。作本も、今ひとつセットが決まらない状態ながら1分51秒891で3番手につけタイトル争いを繰り広げるAstemo Honda Dream SI Racingの2人がフロントロウからスタートすることに

なっていた。

JSB1000クラスのレース1がスタートするころには、青空が広がり阿蘇の大自然の真っ直中にあるオートボリスならではの爽やかな気候の中で行われた。

清成は、スタートを決め1コーナーまでに11番手にポジションを上げると、オープニングラップのうちに9番手に浮上。さらに前を追って行き、2周目には5番手と激しい追い上げを見せていた。その勢いは止まらず3周目には、後半セクションの上りで1台をかわし4番手に上がるが、その直後の40Rで痛恨の転倒。悔しいリタイアとなってしまった。

日曜日は台風一過で全国的に晴れとなった日本列島。オートボリスも青空が広がり絶好の観戦日和となった。朝のウォームアップ走行では、清成は1分49秒973と予選を大きく上回るタイムを記録し2番手につけていた。ST1000クラスでは、渡辺が2番手、作本が3番手につけ、レースへの準備を整えていた。

2021年シーズン最後のレースとなるJSB1000クラスのレース2は、レース1より3周多い18周で行われた。清成は、変更したセッティングがよくない方向に行ってしまう大苦戦。レース終盤にポジションを上げるがチェッカーフラッグを受けるのが精一杯という状態だった。

そしてAstemo Honda Dream SI Racingにとって最終戦、最大のハイライトとなったST1000クラスのレースは、14周で争われた。ポールポジションスタートの渡辺は2番手、作本は4番手で1コーナーをクリア。作本は第2ヘアピンで3番手に上がると、2周目には渡辺の前に出ていく。トップを走る岡本選手のテールをマークしていく。渡辺はトップ2台から遅れ始め、そのテールには南本



選手が迫り3位争いを繰り広げる。

作本は5周目の第2ヘアピンで岡本選手をかわしトップに浮上。このまま逃げたいと思っていたが、思っていた以上にペースを上げることができず、7周目に岡本選手にかわされてしまい、再び2番手となる。その後、チャンスを伺う。一方、渡辺は8周目に南本選手にかわされ4番手に下がるが、後続も離れており、このポジションをキープすればシリーズチャンピオン獲得となるため、余計なリスクを負わずに周回を重ねていく。

そしてレースは最終ラップを迎える。作本はホームストレートから1コーナーでトップに浮上。第1ヘアピン、第2ヘア

ピンと勝負ポイントを抑えトップをキープしていく。しかし上りセクションの50Rで、ややはらんだところをインから入られてしまう。そのまま2位でゴールと悔しいレースとなってしまふ。渡辺は、4位でチェッカーフラッグを受け、全日本ST1000クラスのシリーズチャンピオンに輝いた。



RYUSEI

清成 龍一 コメント

「まずは無事にシーズンを終えられたことをチームやAstemoの皆さんに感謝いたします。前戦の岡山でようやく調子が上向きになってきていたのですが、今回のオートポリスでは、今シーズン通して抱えていた問題が再発し、そこを解決できずに終わってしまったことは本当に残念です。レース1では、マシンのフィーリングは悪くなかったので、ギリギリまで攻めていったのですが、行きすぎてしまいました。レース2はコンディションのせいなのか、朝のウォームアップ走行のときと変わってしまい厳しい状況でした。早くも2021年シーズンの最終戦になってしまいましたが、最後をうまくまとめられず申し訳ない気持ちでいっぱいです。今年も多くの応援ありがとうございました」



WATARU

渡辺 一馬 コメント

「チームのおかげでレースウィークに入ってから楽しく乗ることができていました。レースはポイントのことを考えて確実にタイトルを獲得したいという思いが強くて、かっこ悪いレースになってしまいましたが、今はホッとしています。支えてくださった伊藤監督、小原さんを始めチームの皆さん、戻る場所を与えてくれたHondaの皆さん、Astemoさんを始めスポンサーの皆さん、すべての応援してくださった皆さんに感謝いたします。一人の力では決してチャンピオンになることはできませんから。本当にありがとうございました」



KAZUKI

作本 輝介 コメント

「レース序盤は思っていた以上に苦しくて、自分自身ペースがなかったので、後ろでタイヤを温存して最後に勝負に出ようと思っていました。しかし、こちらも思惑通りに進まず苦しい状況でした。何とか勝負ポイントを探し、最後に仕掛けたのですが、ミスしてしまい前に出られませんでした。勝ってシーズンを終えたかったので悔しいですね。今シーズンも支えてくださったチームを始め応援してくださった皆さんに感謝いたします。ありがとうございました」



チーム監督：伊藤 真一 コメント

「チームとして2年目、Astemoさんとタッグを組んで初年度でしたが、ご尽力いただいたおかげで、ST1000クラスでは、渡辺一馬がシリーズチャンピオン、作本輝介がランキング2位とチームで1-2を占めることができました。JSB1000クラスは、勝利を目指しましたが力及ばず課題が残りましたが、悔しさをバネに前進して行きます。コロナ禍のため早めにシーズンが終わるスケジュールになりましたが、その分、来シーズンに向けた準備に取りかかります。来年は、海外レースを視野に入れ、参戦計画を立てる予定です。引き続きご協力いただきますよう、お願い申し上げます。2021年シーズンもたくさんのご支援、ご声援ありがとうございました」

SIR エスアイレーシング